

広げよう！優良実践の輪！

～ 令和元年度 優良実践校の取組 ～

取組 7

活用力の育成を目指した宿題や 学期末テストの工夫

吉備中央町立吉川小学校

1 はじめに

本校は児童数減少により、平成30年度から完全複式となり、人間関係が固定化し、切磋琢磨し合うような刺激が少なくなりました。学力については、活用型の問題を苦手とする児童が多いという課題がありました。

2 具体的な取組

課題を解決するために次の五つのことに取り組みました。

(1) 学校独自のテストの作成

学力テストの結果から、できることからやろうと始めたのが独自のテストの作成です。作成に当たっては、正答率の低い問題を中心に過去問題を混ぜる、自分の言葉で書く問題を入れる、漢字や計算問題だけにしない、問題用紙と解答用紙を分けるという約束を作りました。

現在では、1年生から6年生までの1・2・3学期用の問題(国語・算数)を作成しています。

テスト類は、データ保存ではなく、教職員の目につき、いつでもすぐに取り出して使用できるように紙媒体で保管しています。



紙媒体で整理

(2) 各種プリントの工夫

授業に沿った宿題を出す、出さなければいけない、ただ丸を付けるだけではないということを出したときは、必ず解説をして返却しました。そして、子ども

たちにただやらせるのではなく、何のためにするのか考えさせるようにしました。

結果として、家庭学習習慣の確立にも役立ちました。また、学期ごとに復習プリントを作成し、学習したことを忘れさせない工夫もしました。語彙を増やすために、「言葉の宝物」、ことわざ等、言語に関するプリントも作成しました。

(3) 振り返りに自分の考えを書く

授業ごとに「わがとも」(わかったこと・がんばったこと・ともだちのこと・もつとやってみたいこと)の観点から自分の考えを書かせる指導を行いました。

(4) 補充学習の取組

公民館と連携し補充学習を実施しています。ボランティア、担任、担任外の教員で指導に当たります。学習時間を地域の方との交流の場としても利用しています。複式学級のため、上の学年の児童が下の学年の児童に教えるという姿も見られます。

(5) 時程の工夫

帰りの会終了後から一斉下校まで30分のゆとりをもたせました。この30分間を利用して、学習が遅れている児童、宿題で間違っていた児童の指導に当たっています。

3 おわりに

全ての教職員が、児童のことを共通理解していることで、同じ指導をすることができ、児童にとつて課題となっていないこと、だけだけでなく、伸びているところも報告しあえるのも本校の強みです。

こうした取組の結果、学力向上が見られ、令和元年度は「全国学力・学習状況調査」で平均正答率が全国平均を上回りました。

現在の取組を継続することはとても大切なことだと考えていますが、同時に、日々の授業改善にも取り組んでいかなければならないと感じています。

(校長 渡邊 教行)



下の学年の児童に教える姿